



ほけんだより

臨時号

社会福祉法人杏樹会
あゆみ保育園

保育園では年齢や季節などに合わせた保健指導を行っています。保健指導を通して感じるのは、子どもたちは自分たちの身体に興味・関心を持っているということです。

シャワーや水遊びなどが始まり、自分の身体や周りのお友だちの身体に興味を持つ子が増えてきた様子です。この機会に下記の『プライベートゾーン』のお話をします。自分の身体や、お友だちを大切にしようとするきっかけとなるようなお話ができるよう進めていきます。

「プライベートゾーン」という言葉をご存じですか

プライベートゾーン＝水着を着ると隠れる部分＋口(くち)

- ・自分の身体は大切なものであること
- ・なかでもプライベートゾーンは、人に見せたり触らせたりしてはいけないこと
- ・他の人のプライベートゾーンを見たり触ったりしてはいけないこと
- ・少しでもイヤな気持ちになったら「イヤ」と言ってよいこと



プライベートゾーンを話すってことは性教育？

まだ関係ないんじゃない？？、早すぎるんじゃないか…？？と思われる方が多いと思います。

では、『生命（いのち）の安全教育のお話をします』という言葉に替えてみましょう。

なぜ、幼少期からこのようなお話が必要なのか。子どもが巻き込まれる性犯罪、性暴力がなくなる現実があります。文科省は、令和3年4月から、子どもが性暴力の加害者や被害者、傍観者にならないように「生命（いのち）の安全教育」という教育を始めました。未就学児～大学生・社会人に発達段階に応じた話をしていきます。未就学児に該当する保育園の子どもたちには、プライベートゾーンや他人との境界線などを教える内容となっています。プライベートゾーンについて正しい認識を持った子どもは、自分の身体も他人の身体も大切なものであると知ったうえで人との関わりを築いていきます。

そして、万が一、子どものプライベートゾーンを見たり触ろうとしたりする人や、自分のプライベートゾーンを見せたり触らせたりしてくる人がいた時に「おかしいな」と気付くことができます。この気がきが、不審者・性犯罪者から身を守ることに繋がります。

乳幼児期は、児童期～思春期へと成長していく中で、正しく性とかかわるための土台となる大切な時期です。



絵本やお話を通して、「自分の身体は自分のもの」「自分の身体も気持ちも大事」であることを伝えていきます。

